

本田 さん

【中小企業診断士を志望した理由】

子供の頃、父の会社が倒産し、その経験から以前より経営には興味がありました。また現在は、塾講師として勤めており、マーケティングから営業、授業運営と一連の流れに従事する過程で、経営の専門性を磨いてより高い自己実現を果たしたい思いがあり、中小企業診断士の学習を始めました。

【受験歴】

- ・2012年 大手予備校にて学習し、一次突破、二次不合格(DDCD/D)
- ・2013年 MMCにて6月まで通信で学習していましたが、模試のアドバイス返却で「通学したほうがより伝えられることがある。」と徳川先生に勧めていただき通学に変更。一次免除、二次不合格(ABAB/B)
- ・2014年 MMCにて再チャレンジ。一次独学、二次通信講座を経て合格。

【一次試験の対策法】

基礎講義を受けた後はその都度、過去問を解き一次本試験と自分の認識の差を埋めることを心がけました。差がある時はテキストやノートに戻り知識を昇華させていきました。自分はその繰り返しに尽きました。余裕がある時は、苦手な運営管理を身近にするため You Tubeなどで工場の動画を見たり、経済の問題に慣れる為、公務員試験などの問題集などを手に入れ量をこなしました。

【2次試験に合格するまで】

・初年度(迷走)

学習を進めていても、自分の学習方法が正しいのか疑問が付きまとい、一方ではタイムリミットが近づいてくる。まるで、羅針盤を持たず、闇夜の航海をしている感覚でした。当然不合格。子供に受験対策を指導している身としては、受験に「学習の型」が無い状態で挑むことがどれだけ無謀か良く分かっていました。その「学習の型」を求めて情報収集をしたところようやく MMC にたどり着きました。MMC の説明会で、MC サークルを見た瞬間、「これだ。あとはやるだけだ。」と素直に感じる事が出来ました。その「やる」が大変なのは当たり前ですが、私にとっては、MC サークルという灯台、経験ある講師陣という航海士が一気に味方についたようで勇気が湧いていきました。

・2年目(自分を捨てる)

2次試験で不合格になるケースで一番厄介なのは、試験で求められるものが正しく認識できていないことだと思います。「題意に忠実に答える」ことを忠実に行うことが大切です。しかし、当時の私は、説明会で中居先生の話の伺い、頭で理解したつもりでしたが、それを正確に実行・体現できるようになるまで時間が掛かりました。

社会人になれば、各現場で少なからず、意見を求められ、独自性を試されているような職場にお就きの方も多いかと思われます。しかし、あくまでこれは「試験」であり、高校入試や大学入試などの国語の試験で答えるがごとく、事例に書いてあることを基にした、過不足無い答案が一番好まれます。(これは余談ですが、事例文に書かれている重要ポイントを見落としてしまう方は、受験国語の文章の読み方のテクニックを見てみても良いかもしれません。)

その本当の意味で気づくまで何度も過去問を解いては、MC サークルや解説集とにらめっこし、試行錯誤を繰り返しました。十数年分を1回転させることが、これまできつとは思いませんでした。しかし徐々に設問パターンに気付いたり、覚えたキーワードがうまく使えるようになっていたりして、得点が上がっていくと楽しくなってきました。それに加えて、幸運にも通学できるようになり、先生方のアドバイスを直接受けることで、さらに楽しさが増していきました。とうとう最後の模試では目標であった上位20%以内に入ることができ本番に臨めるようになりました。

・2年目日本試験(魔物にのまれる)

意気揚々と挑んだ2次試験でしたが、財務でいつものように問題を解けない自分がいました。特に減価償却の定率法の問題では200%定率法の解釈を2通り思いつき判断に迷いましたが、自分の思考では良しとしない方を解答に書いてしまいました。結局、自分が捨てたほうの解答が正答でした。2年目に失敗したのはこうした、自分に自信が持てなかった事、また解答に「分かりやすさ」が足りていなかった事が原因と判断しています。

・3年目(より分かりやすく)

2年目の失敗を糧に、ゆるぎない自信を持つために練習量を増やし、判断を誤らないために、常に因果関係をさらに意識するようにしました。1次試験との両立方法としては、5月までは平日は苦手科目を中心に1次試験科目を回し、土日は2次試験の学習を進め、5月以降は1次試験のみ学習しました。それでも、2次試験から離れないように過去問の模範解答集を暇があれば見るようにし、解答のリズムを忘れないようにしました。

1次合格後は、中居先生の「時間に追われてダメな解答を書いてもダメな解答を作る練習にしかない。きちんと考えて分かりやすい答案を作る練習も必要。」という言葉を読み出し、「解答の金型」を意識しながらより分かりやすさを追求した答案を目指しました。字数を削げる抽象的な言葉を敢えて捨て、可能な限り、平易な言葉を選ぶように意識しました。その結果、模擬テストでもコンスタントに上位10%以内に入れるようになり、その勢いで合格する事が出来ました。

【最後に】

合格後、2年目の私の失敗を引き合いに、「これで生徒に『自信を持って入試に臨め』って胸をはって言えるね。(笑)」とからかいながら、声をかけてくださった中居先生。独特の具体例から展開される授業が楽しい徳川先生。いつも「大丈夫、大丈夫。」と声をかけてくださった大谷先生、川橋先生。また、親身な答案添削をしてくださった先生方にお礼申し上げます。講師と、受講生の距離が絶妙なのがMMCの本当に良いところなのかもしれません。本当にありがとうございました。

これから、MMCを検討なさる方もいらっしゃると思います。MMCの合格の秘訣は単純で明快なメッセージです。しかしそれは濃縮されたノウハウの結晶であると合格した今、再認識しています。

今まで、強いこだわりを持って学習を続けてきた方ほど、自分のやり方を捨てるのに抵抗があると思います。しかし強いこだわりをもってしても、合格しなかったことに敢えて目を向け分析する為にも、MMCの門を叩いてみてはいかがでしょうか？

最後はMMCの回し者のような文になってしまいました(笑)が、最後まで目を通していただきありがとうございました。